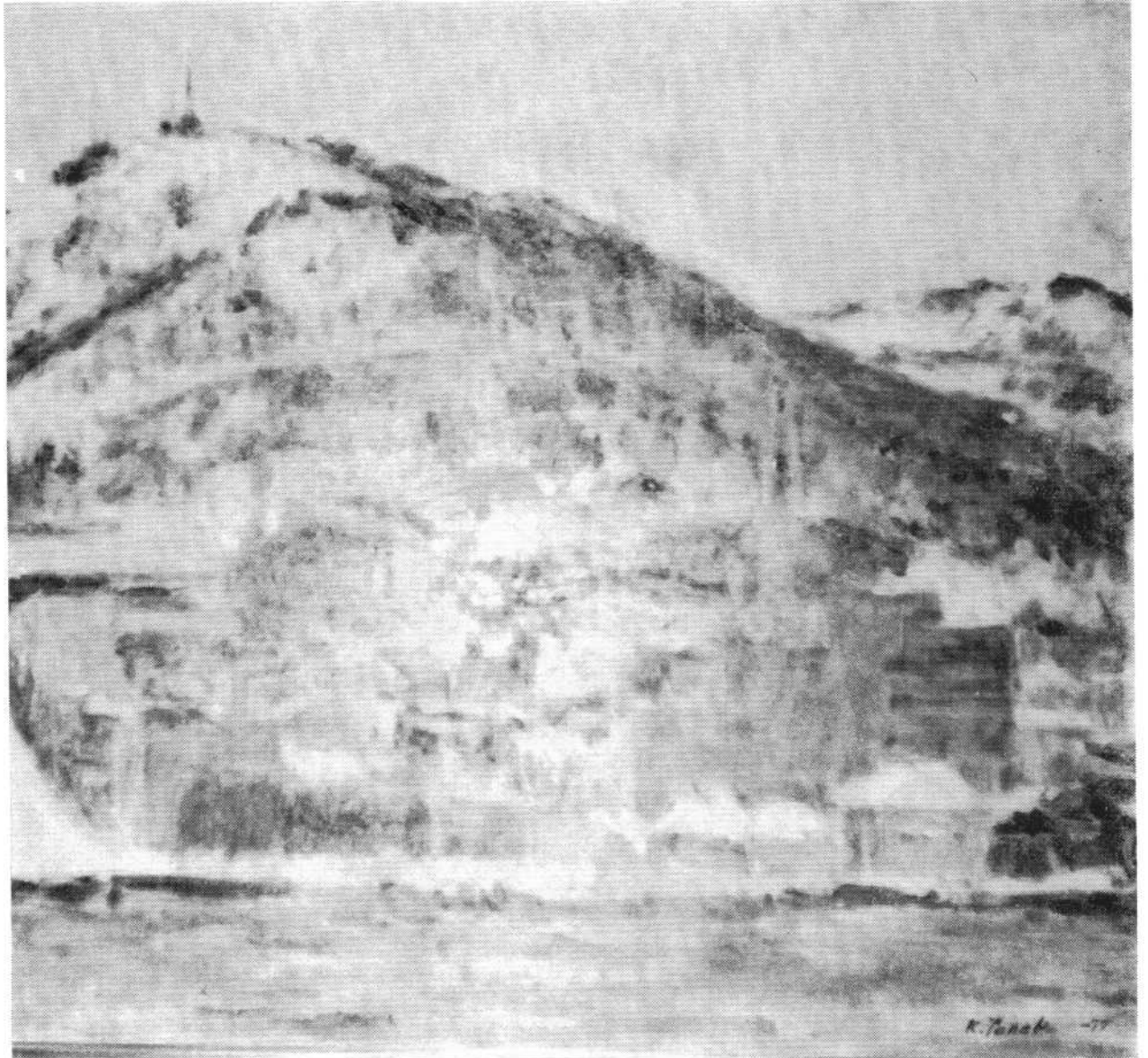


東京白楊丘より

第 8 号

60.9.1



『雪の港』 (1978年・30号) (部分)

田辺謙輔 (昭2年卒) 作



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制 函館中学校
函館中部高等学校

交流の輪をひろげて発展へ

支部長 村上敏夫



をふやし、交流の場を広げて、輪(和)を広げていく外はないと思います。全員参加の交流によって、実り大きい支部の実現にご協力賜らんことをお願いいたします。

時の刻みは限りなく瞬時も休むことなく前進し、天地の運行は四季の変化を規則正しく織りなして循環し、そして再生して行きます。私も支部長に選任されて今年には四年目になります。

今年度は役員交代の年になりますが、支部運営について事志と相違し、発展に寄与すること少ないまま過ぎしてしまつたと反省しております。

昨年の支部大会以降、支部役員と事務局は、母校創立九〇周年行事に関する連絡と情報の蒐集、同窓会本部と地区同窓会との交流実践、会員相互交流機会の増加対策としての女性のクラブ結成への努力等をしてまいりましたが、何んと申しましても支部そのものが魅力ある存在とならなければならないと痛感しております。そのためにも人、金、物(設備)が、バランスよく組合わされなければ達成出来そうもないことは論を俟たない処であります。

現況としては、人と人との交流の機会

十月に企画されております大会懇親会は魅力ある会合の場を提供して、嬉々として談合出来るように努力いたしております。一人でも多くの会員の方々が、お誘い合せの上ご参加をいただきたいと念じております。

昨年の大会には母校中村校長、笹島同窓会会長に御臨席をいただきました。90周年記念の募金についてお話があり、ご協力申上げることになっておりました。

その後、中村校長が再度ご上京になられ、又笹野募金協賛会副会長が支部評議員会にご出席になられて、募金の情況説明と協力依頼がございました。目標達成も、今一步という処でございますが、十月十二日の九〇周年記念式典は成功裡に取り行われる見通しとなっております。

各期の会員皆様はお誘い合つて函館の母校を御訪問、式典を賑々しくして下さいようお願いいたします。

今年も厳しい年です。会員各位のご健勝とご発展を念じて、ご挨拶を申し上げます。

百周年に向けて

「先輩諸氏のプロフィール」を送って下さい

函館中部高校校長 中村 力 (四五期)



九〇周年記念式典も間近に迫り、準備に大奮です。

協賛会の募金は、当初の目標を少し下回る見込のため、事業計画はやゝ縮少してとり進めておりますが、何よりも嬉しいことは、募金に応じて下さった同窓生が四〇〇〇名に近づいていることです。

やがて一〇〇周年の前段としての九〇周年であるだけに、これだけ多数の方々協賛の行動を起して下さった事で、洵にもって心強い限りです。諸事業・行事の成功に万全を期すこと、またこれを契機に本校教育の一層の振興に力を致す責任を痛感しております。

寸暇をさいて日夜奔走しておられる各期幹事等代表の方々、各支部の役員、そして協賛会事務局をはじめとする役員・校内委員の諸氏に心から感謝申し上げます。

次第です。皆様の御声援に支えられ、校内の盛り上りも格別なものがありません。

すでに九〇周年記念耐久レースとして、久しく跡絶えていた校内マラソンを復活しました。笹島同窓会長も賛助出走し、全行程を走破され、一人の落伍者もなく成功裡に終了しました。

とかくこれまでお祭騒ぎに流れ勝ちであった白楊祭も、生徒自らの発案で改善の一步を踏み出し、すでに昨年度末からその準備にとりかかっております。

私がかねて念願していた洋上研修も、一年生の宿泊研修を抜本的に改善しようという教職員の意欲と相まって実現の運びとなりました。九月五日に一年生全員が、連絡船十和田丸に乗船して釧路湿原・摩周湖方面への二泊三日の洋上研修に出掛け、大いに鴻鵠の志を養って参ります。

さて、本校卒業生の優に他に誇り得る事は、在学中に克く人を知り己を知ることにあるかと思えます。諸々の学校行事が、生徒にとって誇りあるもの、意義あるものとして行われ、この中で自らを

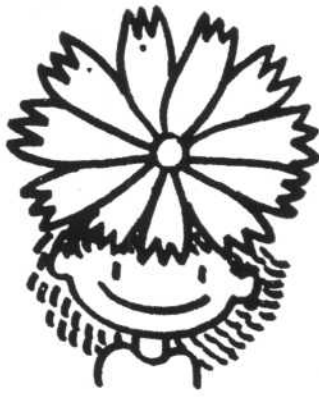
試し、良い友、良い師にふれ、人を信じ人に信じられる人間に育つこと、これが肝要かと思えます。

更には、良い先輩に恵まれ、その素晴らしい足跡に学び得るのも本校ならではの事です。

この意味で諸先輩の卒業後の足跡集とも言うべき各期ごとのファイルを校長室に備えました。皆様の論文・文集や自伝を、或いは新聞雑誌等に載った同窓の方の消息やプロフィール等は、目につき次第お手数でもコピーをお送りいただければ大切に保存します。

一〇〇周年に向けて後輩へのよい饞けにしたいと思ひ、御協力をお願い致します。

在京各位の御健勝御発展を祈ります。



昭和五十九年度事業報告

昭和五十九年度は、新規約による支部活動の初年度でありましたが特別なこともなく、例年どおり計画に従った事業活動をおこなうことができました。

昭和六十年三月三十一日現在、支部会員登録数二、一七四名、前年比二一名増加いたしました。

役員は、支部長・副支部長・理事の執行部一四名および監事二名には変化なく、評議員は規約にもとづいて定員をふやした期がありましたので二名増員の五八名、顧問は阿部良平および北川有光の両氏が逝去されましたので、四名となっております。

役員会は、評議員会を一回開催いたしました。決算・決算、総会開催関係、組織運営等々活発かつ建設的なご審議をいただき、事業執行にかかわる理事会は二回開催したほか、担当理事間の小会議を数回開催いたしました。

定例の事業であります、①会報発行は第七号を八月一日付で二、五〇〇部作成して会員に配付し、②第八回支部大会は十月一九日千代田区平河町マツヤサロンで開催致しました。

母校ならびに本部・他支部との交流関係では、①評議員会に母校教頭ならびに本部役員笹野氏のご出席を得て創立九〇



昭和六十年役員

(○印は理事)

② 支部長 村上敏夫(昭8)
副支部長 池田和行(昭18)

伊東克郎(昭21・22)

小泉龍彦(昭25)

黒川陸郎(昭29)

菊地勝衛(昭6)

宮本武雄(昭8)

和田貞一(大11)

佐瀬順夫(大15)

大川原雄三(昭2)

○小畑文雄(昭3)

荒川正夫(昭4)

岩橋安藏(昭5)

菊地勝衛(昭6)

伏見滋夫(昭7)

加藤敏雄(昭8)

松原竹造(昭9)

加藤孝一郎(昭10)

高尾正保(昭11)

前田徳尚(昭12)

相馬正樹(昭13)

太刀川善弥(昭13)

宍戸修(昭14)

名取肇(昭15)

菅原茂夫(昭15)

笹島正秋(昭16)

佐藤文三(昭17)

○池田和行(昭18)

渡辺保二(昭19)
吉田治作(昭20前)
武田好司(昭20後)
伊東克郎(昭21・22)
納代正信(昭23・24)
小泉龍彦(昭25)
福津達男(昭25)
多和田裕(昭26)
種田忠夫(昭27)
大沢勘八(昭28)
山口ヒロ子(昭28)
黒川陸郎(昭29)
内藤博(昭29)
吉田孝(昭29)
野村実(昭30)
吉田精吾(昭30)
渋谷昌平(昭31)
眞船昭(昭32)
北原耕太郎(昭33)
藤岡達郎(昭34)
荒井浩(昭35)
越後谷宏(昭36)
林高祐(昭37)
小原一(昭38)
菅原大作(昭38)
本田彦(昭29)
佐賀達郎(昭40)
富田寿明(昭41)
高木隆(昭42)
後藤豊(昭43)
佐野実(昭44)
小林隆康(昭47)

○長島裕司(昭48)
青木和彦(昭50)
齋藤鎮雄(大8)
和田貞一(大11)
田中清玄(大13)
大川原雄三(昭2)

昭和六十年度事業計画

- 今年度は、定例の事業である
- ① 会報の発行(八月一日予定)
 - ② 支部大会の開催(十月二十四日)のほか
 - ③ 刊行予定の全会員名簿にもとづく支部会員の把握
 - ④ 評議員未定の期あるいは基準数に満たない期の評議員選任等組織拡充以上の二点についてより一層の努力をいたしたいと存じます。
- 会費納入促進とあわせ会員各位のご協力をお願いいたします。



第九回東京支部親睦大会開催のお知らせ

10月24日(木)ホテル高輪にて

今年度の親睦大会の日程が次のとおり決まりました。

本年はとくに、母校創立90周年記念の年でもありますので、先輩・後輩、男女の区別なく、同窓同期の友が一堂に会して楽しい交流交友の場として一夜の数時間を過ごしたいと思います。

仲間の方々に呼びかけ合って、お繰り合わせのうえ、ふるってご出席くださいますようお願いいたします。

●とき 60年10月24日(木)午後6時～9時

●ところ 「ホテル高輪」地下二階オーロラの間

港区高輪二一―一七
電話(四四三)九二五―
都営浅草線泉岳寺駅下車徒歩一分 国電品川駅車で三分

●会費 六、〇〇〇円

会費納入のお願い

会費納入の時期がまいりました。

60年度会費二、〇〇〇円を郵便局払込用紙をご利用のうえ、お払込みくださいますようお願いいたします。

昭和59年度収支決算

(59. 4. 1から
60. 3. 31まで)

(60.3. 31現在)

- ・収入決算額 3,145,432円
 - ・支出決算額 2,226,783円
 - ・収支差引残高 918,649円
- (内 訳)
- 定期預金 750,000円
 - 普通預金 136,451円
 - 現金 32,198円

○59年度決算

- ・年会費収入は予算の94%の実績となり、100%にあと少しというところ。会員の皆様ありがとうございました。
- ・今年度の収支決算残金から前年度繰越金713千円を差引くと、205千円残ります。つまり、前年度繰越金に手をつけず、まるまる温存されたこととなります。

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費 収 入	1,313,000	運 営 費	568,311
寄 付 金 収 入	115,000	消 耗 品 費	17,100
利 息 収 入	25,865	印 刷 費	61,260
大 会 費 収 入	933,000	通 信 運 搬 費	39,853
名 簿 等 頒 布 収 入	19,000	会 合 会 議 費	32,886
雑 収 入	26,000	理 事 会 費	63,316
小 計	2,431,865	評 議 員 会 費	69,476
前 年 度 繰 越 金	713,567	本 部 派 遣 費	135,840
		会 費 払 込 料 負 担 費	29,780
		大 会 準 備 費	118,800
		事 業 費	1,544,422
		会 報 印 刷 費	170,000
		会 報 送 料	192,352
		会 報 諸 費	22,010
		大 会 費	1,049,790
		大 会 諸 費	110,270
		雑 支 出	114,050
		小 計	2,226,783
		決 算 剩 余 金	918,649
合 計	3,145,432	合 計	3,145,432

昭和59年度決算剰余金 918,649円は、規約第19条にもとづき次のとおり処分します。
積立金積立額 80,000円
次年度への繰越額 838,649円

昭和60年度収支予算

(60. 4. 1から
61. 3. 31まで)

○60年度予算

- ・前年度実績をもとに、概ね前年並に予算といたしました。
- ・会費収入は700名を予定しておりますが、この納入如何が支部発展消長に大きく影響しますので、格別のご協力をお願いいたします。
- ・大会出席者を200名と想定して予算計上し、その中で大会総費用を賅いたいと思います。
- ・支出については、前年予算を基本とし、実績を加味して予算計上しました。

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費 収 入	1,400,000	運 営 費	950,000
寄 付 金 収 入	1,000	消 耗 品 費	30,000
利 息 収 入	30,000	印 刷 費	120,000
大 会 費 収 入	1,200,000	通 信 運 搬 費	50,000
名 簿 等 頒 布 収 入	1,000	会 合 会 議 費	50,000
雑 収 入	50,000	理 事 会 費	150,000
前 年 度 繰 越 金	838,000	評 議 員 会 費	170,000
		本 部 派 遣 費	210,000
		会 費 払 込 料 負 担 費	40,000
		大 会 準 備 費	130,000
		事 業 費	1,670,000
		会 報 印 刷 費	230,000
		会 報 送 料	200,000
		会 報 諸 費	40,000
		大 会 費	1,100,000
		大 会 諸 費	100,000
		雑 支 出	180,000
		予 備 費	720,000
合 計	3,520,000	合 計	3,520,000

函館中部高等学校

創立九十周年記念協賛会

記念行事及び記念事業決まる

協賛会の設立総会は、昭和五十九年三月開催され、このたび昭和六十年年度の総会が七月五日に開催された。設立総会は計画予算として、五、二〇〇万円を決めて昨年から同窓会の各期目標額を掲げて募金活動を始め本年六月末日までに、三、〇〇〇余名に及ぶ同窓生の方々から三、三、三四万円の賛助金が寄せられた。

六十年度の総会は、実行予算の審議とともに、諸行事及び事業の内容について決定をみたわけであるが、募金については、更に継続することにした。ここにその行事の日程や事業の概要をお知らせします。

記念行事としては、十月十二日の函館中部高等学校創立九十周年記念式典に先立ち、母校の創立記念に彩りを添えようと、十月九日夜、市民会館大ホールにおいて同校卒業生と在校生合同の白楊吹奏楽団記念演奏会を皮切りに、十月十日から十月十五日迄（井今井デパートにおいて同校白楊画会卒業生展が開かれる。吹奏楽団は、昨年函中吹奏楽団二十周年記念演奏会を盛大に開催しており、また白楊画会展は、創立八十周年記念でも開催して、大正末期から昭和初期に誕生した画

会部の卒業生をはじめ、各地の美術界で活躍している方々の作品が好評を得たので、地元はもちろん、東京、札幌在住の卒業生も含め、五十人近くのバラエティ豊かな顔ぶれからの出品を計画している。

十月十一日午後からは、市民会館小ホールにおいて、本校母の会が主催する「幸田弘子朗読会」も創立記念式を盛り上げよう、ということでの母の会の旧役員もこの行事に力を入れている。

十月十二日は、本校昭和九年卒業生で東京大学名誉教授（前東大地震研究所長）森本良平氏の記念講演会、記念式典を市民会館大ホールを会場にして、午前中開催される。

十月十二日午後は、市体育館において、祝賀会を開催される。この祝賀会には同窓会員にかぎらず、PTA会員の参加も大いに歓迎されるところである。

なおこの祝賀会に引きつづき、旧職員会総会を計画しているので二〇〇名にもおよぶ旧職員の出席が予想されている。

さらに、九十周年記念を祝して、現在横浜市に在住の同窓生画家田辺謙輔氏（昭和二年卒）は、「油絵五十年田辺謙輔展」を開催すべく、棒二森屋デパート



記念協賛会総会（7月5日）

を会場にし、その準備を進めている。氏は五年前、横浜市主催による展覧会を開催、「ポップラと教会堂」40号、「暮の港」50号等、函館に縁りの絵画が多いと聞いている。

次に記念事業としては、同窓会は名簿を七月二十五日に発行する。また、協賛会では九十周年記念誌として、明治、大正、昭和、そして現在の函館中部高等学校に及ぶ約五〇〇枚の写真を収集。「写真集」を発行する。

記念事業の生徒に直接関係するものとしては、吹奏楽団の楽器の購入をはじめ、運動部の部活動、生徒会行事の際等に必要要望事項を検討の上、決定することとしている。（教頭 堂高栄治）

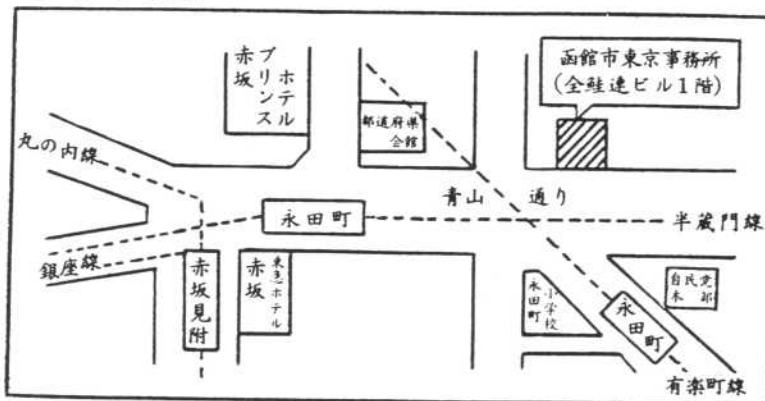
函館市の

東京事務所がオープン

このたび東京平河町に函館市の東京事務所が設置されました。これによって関係機関との連絡調整、企業誘致活動の推進など市勢の発展を期したいということです。どうぞお気軽にご利用ください。

住所 千代田区平河町二一七一二
全銚連ビル一階
電話 (二六一)〇〇七二

事務所略図



随筆

『軍人と野球』

伏見 滋 夫

(昭7年卒、34期)

今の若い人にはピンとこないかも知れませんが、五十年代後半位の人にはわかっていると思います。戦前派の私達の時代は国民皆兵で中学校より軍事教練と云うのがあり、「オツカナイ」プロの軍人さんが軍部より派遣されて来ておりました。その軍人さん(中佐)が意外と野球が好きで、大島中佐と云う軍人でしたが随分と可愛いがられました。

私が甲種合格で旭川の歩兵第二十六連隊に入隊したときこの大島中佐が偶然、連隊付でおられ、わざわざ入営した日に、中隊まで来て激励してくれました。他の兵隊さんは皆直立不動、びっくりしていたのをおぼえております。それに幹部候補生の試験委員をしておられたので、私ばかりでなく他の函中卒業生で幹部候補生受験者はみなとくをして、この時は全員(五人位)合格した筈です。

次に昭和十三年二月第一回の召集で渡満し、チノハルに駐屯していた時、部隊の軍旗祭のアトラクションの一つに對二十五連隊(札幌の連隊で兵舎が大きかったので二ヶ連隊が入っていました。)

との連隊對抗の野球をやることになりました。これは師団長の園部中将が野球が大好きだったらしく、早速連隊副官の丸山少佐(後にノモンハン事変で戦死)より私が呼び出されました。当時私は乙幹の軍曹で五千名の部隊の炊事班長だったので。おそれるおそれる連隊本部の副官室に行きましたら、副官がにこにこして

「まあ伏見楽にしろ、とこでお前はあのオーシャンクラブの伏見の息子だろう。私は昔、函館の谷地頭にある津軽要塞司令部に勤務したことがあるので、お前の親父の名捕手振りをよく知っておる」と云うのです。私はここにも野球の好きな軍人さんがおるなあーと思いました。つづいて「実は今度の軍旗祭で師団長が野球が好きなのでアトラクションで連隊對抗試合をやることになった。お前は伏見のせがれでオーシャンの選手をやっているときいて、監督に任命するから直ちにチームをつくれ」とのことでした。それで総監督丸山少佐、監督伏見軍曹で二十六連隊のチームが出来ました。選手は主に函中、函商、小樽高の選手が主体で、函中出身では私の一期下で現在も小樽で健在の石川治郎君がおりました。試合は二一二で引分けでしたが、わざわざ園部閣下も見物にこられ、大喜びの様子で、大いに面目をほどこした次第です。二十四才位の若い兵隊時代の想い出の一つです。野球も思わぬところで役立ちました。

『北洋木乃伊の雑感』

太刀川 良 三

(昭13年卒、40期)

黒煙は濛々と左(右舷)の空へたなびき火焰は炎々と燃え盛り、百米近く離れているのに顔が熱い程。「いよいよ俺もここで死なねばならぬ運命か」と覚悟をきめた。十六年前の五月下旬、島一つ見えぬ北洋でのこと。

私が死を覚悟したのは中国の長沙以来のこと、終戦直前將軍三万に包囲され、当方兵力は軍司令部以下僅か六百と聞きランチェスターの法則をまつまでもなく一ころだと塹壕の中で月を眺めながら思ったものだ。弾丸の下を潜ったことも数回あるが、函中の軍事教練で当時最新式の傘型散開を教わり、高水―旭川原隊―中支派遣軍と鍛えられ現地で教官もやり、そんな弾丸には当らぬという信念があったが、この様に囲まれてはもう終りと思つて以来の覚悟だった。

この船火事の時船団本部長として乗船していたので直接の指揮は、防火は船長、独航船と母航船の操業は船団長の責任だったが、最高責任は免れぬ。

消火班以外総員退去させたのち、五時間間に及ぶ苦闘の末鎮火したが、母船は第一第二甲板後半焼損して航行不能、缶詰工場も同じ(ただしどちらも三日後に応急修復)、無線はアンテナをやられ八系統のうち残るは非常用一本のみ。とこ

ろが消火した船長も立派なら船団長もわが後輩ながら立派で、漁撈操業を一日も休まず鎮火前から独航船を展開し次の日からの漁獲は数日間冷凍で凌いだ。

当時これ程の執念を持って守つた鮭鱒漁業が昨今の日ソ漁業交渉はどうであろうか。交渉ではなく毎年陳情と嘆願の繰返しとなつてしまった。母川国主義というなら、北洋で育つ鮭の何割もが北海道を主とした日本の川から孵化放流したものだ。これを書いているときアメリカからもキングサーモンを獲るなど云つて来た。こうなればバイオテクノロジーで日本生れの鮭は一目で見分けのつく方法と選別漁法の開発しかなくなる。沖取ものは沿岸より美味いのは周知の事実であるから最近では北洋の方が高値だが、ソ連にキロ当り百十三円も払っているのは面白くない。

昨年所用でモスクワへ八日間ほど行ったが、クレムリン周辺のみならず空港始末に至る所軍人と警官が目立った。離婚率五〇%のモスクワの婦人達がモンカ袋を必ず持参して行列している姿を見ると哀れでさえある。ソ連の人は公けとなると頑なだが、個人的つきあひの時はまだことに良い。願わくば北方領土を始め交渉の時もそうなつて欲しいものだが。

北洋漁業の衰退から必然してわが愛する故郷函館は経済的に苦しくなつていくと聞く。市民の英知と努力によって再び活力ある往年の「暮らしやすい街」の名

声を取戻すよう衷心より願ってやまない。十劫永遠に幸あれと祈るばかりである。

『幼稚園讃歌』

大島 隆

(昭19年卒、46期)

五十九年三月三十一日で退職決定、二月二十日退職願を提出。

女房は、退職後の心配をする。「教員の天下り先はほとんどないさ、好きな囲碁史、郷土史をポツポツまとめるか、お前に食わしてもらおうよ、(女房は中学校の事務をやっている)」などと、そんなべから、幼稚園に勤めるよう話があった。中学校ばかりで小学校の経験もないので、不安を持ったが引き受けた。

無責任なものである。

四つの園長、児童館長と五つの長である。

入園式四回、遠足四回、鬼に角、行事を四回ずつやる。

主任さん達の話し合いで、重ならないように日を決めているので始末が悪い。

児童館は住民課、幼稚園は教育委員会、私はコウモリみたいだ。

中学校勤務のとき、ツツバリの生徒もいた。

だが、その生徒自身本当にワルだと思

ったことはなかった。

ただ、生育歴の中で、学校、家庭のどこかでのつまづきが、人間形成に災いをもたらすと思う。

それが、幼児期の家庭教育によるものもあると思われるので、園ではPTAを通して、父母の役割など勉強してもらっている。

今、私は園児とサッカーをしている。体が弱かった私は、スポーツの楽しみを知らなかった。

園児とのサッカーは、サッカー遊びである。園児が遊んでくれることで、園児にモチテである。

還暦にして、サッカーを楽しめるとは、こんな幸せはない。

『近況』

池田 斉

(昭37年卒、64期)

先日、幹事の林君から夜電話があって、何か書いてくれと言う。しゃれた事の一つも書いてみようと思ったが、何せ忙しく、まとまった時間がとれない。皆様も同じような状況なのだろうと思ったりした。

そんな訳で、ぶっつけ本番、昭和六十年六月十七日現在の小生の姿を書いてみ

る事にした。昭和三十七年に国立大学の医学部に進んで、内科の医者になった。卒業して大学で研修している頃、父が急に病気になる。函館市の医院の仕事を二年間程やった。昭和四十八年にまた大学にもどって勉強の続きを始めた。教授との相談で、ホルモンの研究、ことに甲状腺の研究をすることになった。昭和五十四年からアメリカに留学して、三年間は毎日ネズミの相手をして暮らした。昭和五十七年に元の医局に帰ったが、思うようなポストはなかった。昭和五十九年、埼玉県の奥にある埼玉医大の内科に就職した。そして、今年四月から、その分院である川越市の埼玉医大総合医療センターの中央検査部という部門へ勤務を命じられている。川越市(東武東上線池袋から約四十分)からバスで約二十分いくと、田んぼのまん中に、物凄く大きな建物がある。これが新設された我が病院である。

昼間も夜も、蛙の声が聞えてくる。つい先日まで、田植え前の準備らしく、肥料の臭いが空中を漂っていた。中央検査部の医者の仕事というのは、考えてみれば変なものである。患者さんを診察する事が無い。従って聴診器も要らないし、薬を処方することも無い。早い話が検査技師さん達の現場監督である。大学卒業後十五年以上、内科の臨床医としてやってきたが、もう患者を診る事もないと思

うと、やはりおかしな気持である。ぶつ

うのサラリーマンでも学術課から営業部へ回されるようなことがあると思うが、丁度そんなものである。

さて、これから検査部の医者としてどんな風にしてやっていこうか？雑用の合間、蛙の声が耳に届きはじめると、我が将来に思いをはせる、今日この頃である。

計報

前支部長北川有光氏が昭和六十年五月八日午前三時十五分心臓発作(心筋梗塞)のため急逝されました。

支部に対する情熱、そして功労は偉大なものでした。

葬儀には、斎藤初代支部長はじめ、小畑、福津、黒川、野村、小泉、そして函館から、副支部長も列席されました。

弔 辞

四月二十八日夕刻北川大先輩が倒られたとの報を受け、数人の後輩に連絡したが、誰もが「まさか」「本当か」「そんな事が信じられませんでした。十二日間の闘病の後五月八日三時十五分、眠るが如き、大往生の報せでした。」

(中略)

先輩は明治三十九年北海道岩内町に北海道開拓史に記される北川家のご長男として生まれ、ご幼少の折はヤンチャ坊主そのものでしたが、学業は岩内小学校開

校以来の神童とうたわれ、当時北海道随一の名門校、函館中学に、今で言う越境入学、並入る逸材と共に学び五年間を過しました。その間卓球部、剣道部で主将として活躍、特に卓球では、後に大正大学にスカウトされる腕前だったと言われて居ります。大学卒業後、浅草の余郷有存先生に認められ仏門に歩みを進められたと承りました。

幾星霜今より九年前の春、母校同窓の仲間から我々函館中学、現高校の同窓会東京支部を発足させようと計画の音が上った折「よし」と先輩自ら先陣を切り、旧制中学の同窓会を母体として、とにかく新しい後輩を入れなければ伝統も枯れてしまうと力説、古い殻を乗り越えて行こうと働きかけ、頭でなく足で説得するんだと元氣よく、あの艶やかな笑顔で東奔西走、その迫力は語り草になる程でした。ついに五十二年秋、当時の松屋代表取締役齋藤鎮雄先輩を頂点に東京支部を設立されました。

それから九年自ら二代目支部長を引受けられ、そのたぎる情熱を傾注、よく「徳川家なら秀忠だネ」と皆んなを笑わせながら、我々の同期会にも姿を見せ、卒業垂範、同窓会は縦と横の絆がしっかり結びついてこそ血が通い、真のロマンとドラマが生まれ活きるんだ、と口ぐせに申し、今日の立派な組織を築かれました。

この間良く先輩の語りの中で、楽しい函中時代の勉強・運動・悪さを聞きま

した。今となってはもともと語り続けてはしかなかったものです。(中略)

白楊ヶ丘同窓会は先輩のお陰で生まれ育ち、たくましく鍛えられ、先輩の精神を糧として満ち満ちして後輩に引き継がれ不滅です。

先輩安らかに眠って下さい。

昭和六十年五月二十二日

白楊ヶ丘同窓会東京支部

副支部長 小泉 龍彦

林 鳳一郎氏

(当同窓会評議員)

去る六月二十一日逝去されました。享年七十二才。

同氏は三二期(昭5年卒)評議員として本会発展のため大変ご尽力いただきました。ここに心からご冥福をお祈りします。

畑山 正氏

(当同窓会評議員)

去る四月二十日大腸癌のため、逝去されました。享年五十二才。

同氏は都立高校教諭として教鞭を執られる傍、本会発展のため、ご尽力されました。心からご冥福をお祈りします。

同期の集い

函中28期会 (大15卒)

函中28期会は過去数十年春秋二回集ることにきめている。

この所、常連は七、八名になってしまった。昨年五月、時任君の活躍した時代の水泳部がかちえた優勝杯のことから、先輩の和田さんが加って下さったことは『東京白楊だより第7号』にのせたが、そのことがきっかけになって、先輩の方々に御希望があればお加わり頂こうという事になった。残念ながら私共以前にも一人でも多い方がいい。

昨年十月は再び和田先輩におんぶして、銀座「たい家」に集った。この時は、はるばる大阪から今井欣悦君がかけつけた。

この春は五月二十五日、場所を新宿に変えた。和田さんは御都合悪く、今度は、26期の田中清玄さんが御出席下さった。今井君とは昔函館で家がとなり同志であったという間柄である。今井君は前回同様、灘の原酒を一本ぶら下げて来た。島原健一君も久しぶりに顔を見せ、にぎやかな集りになった。「八十まではんばろう」というのが合言葉の様になっているが「一人になってもやる」と

いう猛者もいる。

おしまいは例によって「玄冥の北の一道」を高唱するのだが、私共は二節目を「集ひ寄る五百の子弟」と昔のままに歌う。同じ様に四節目は「帝国の運も負へかし」である。

さらに応援歌「宇賀の浦波音高く」「黄塵渦巻く谷地頭」「俺どん選手の猛者達は」などをどなるのだが、妙に他校に負けて、泣きべそをかきながら歌った時のことが思い出されるのだ。

(佐瀬順夫記)

東京昭五会 (昭5卒、32期)

一、東京昭五会開催。本年三月三十日(土)午後一時、銀座二丁目「高松」出席者八名、議題は函館昭五会が開催の五十五周年記念同窓会への出席希望者三名を連絡することを決め、会は盛況裡に散会。

二、函館昭五会主催の五十五周年記念同窓会開催報告、開催日、五月二十五日、二十六日、場所、恵山高原ホテル、出席者函館十三名、東京三名、一同は二十五日午前十時、函館駅前をバスにて出発、同十一時恵山着、自由行動、午後五時三十分高原ホテルにて開宴、盛況裡に終宴、同ホテルに一泊、翌二十六日午前十時バスにて函館元町公会堂に至り、附近を散策の後、五島軒本店に

おける昼食会に臨み、午後二時散会、なお昼食会の席上、五年後の六十年周年記念同窓会の開催を申合わせ確認。

三、東京昭五会では、五十一年二月に同窓生の関東地区居住人員の調査をしたところ二十一名でした。本年五月末日現在では十八名になり、常に昭五会に出席する者十一名です。

四、三十二期評議員の林君がなくなりましたので、今後は小生が世話人をさせていただきます。了承下さい。

岩 橋 安 藏

一四四

東京都大田区新蒲田二一三三―十五

〇三一七三一―三三七六

昭7卒 (34期)

昭和七年卒業生の者は現在、まだ約九十名生きており銀楊会と名付けて本部は函館市においており、函館在住の西堀外科院長、米伊左男氏等が世話役をしております。東京周辺には約三十名おりますが、健在の人は二十名位で、毎年一泊旅行の外、隔月毎に池袋サンシャインの緑丘会館で、昼食会をしております。昨年度の一泊旅行は、十月、一行十五名、湯河原温泉に行つて来ました。本年度は群馬県の法師温泉に行く予定となっております。この外函館湯の川温泉で十月には同

期生全体に呼びかけるクラス会があります。東京の幹事小生、その他世話役は大原、鈴木、松田、五十嵐、三ツ谷、来住野、村田、三上の各氏です。

(伏見滋夫記)

函八会 (昭8卒、35期)

日時 昭和六十年六月七日(金)

場所 三菱化成初台寮

出席者 常連二十一名の他に今回は浜田榛名さん、虎石龍雄さん及び札幌支部の本谷敏さん計二十四名が参加された。浜田さんは在学中、野球部で強打者として鳴らし、最近生死不明とされていたが、同じく野球部の大野さんの執念で大阪府堺市在住の消息をつかみ、又虎石さんは二年で仙台に転校されたが杉沢さんが連絡とれたとして皆と五十年振りの再会であった。そして本谷さんは昨年函館より札幌に移り、仙北、寺島さんのすすめで久しぶりに東京見物の為上京した機会に出席された。

◎ 勿論全員七十才前後で殆んど第一線の活躍を終え、悠々自適の境にあり、之からの余生を如何に有意義に過ごすか等、話は尽きず、最後に「玄冥の北の一道」と校歌合唱で来年の再会を約しつつ散会した。

(加藤敏雄記)

昭19卒 (46期)

① 昨年九月十五日ホテル函館ロイヤルに於て卒業四十周年記念パーティーを行った。

東京、札幌を始め全国から恩師を含め一五〇名が函館に集合、母校見学、物故者の供養、夜は夫人同伴による華やかなパーティーや翌日は市内周辺の観光、ゴルフ大会など昔に還って大いに青春の血を燃やし生涯の記念すべき行事であった。

② 昨年十一月十六日第二十五回東京同期会を銀座スキヤ橋のニュートーキョ

1で行った。函館から幹事二名も参加、出席者二十五名、最後に函中校歌「玄冥の北の一道」を大合唱し、戦中派の意気を心ゆくまで発散した。

幹事連絡先

渡 辺 保 二

〇三一九七四―五六七三(自宅)

笠 島 秀 夫

〇三―五三五―五五七一(会社)

田辺謙輔氏 (昭2年卒) 函館で90周年協賛個展



田辺先生はこととして画業50年になりますが、今回はじめてふるさと函館で、母校90周年記念行事の一つとして、10月12日より棒二森屋デパートで個展を開くことになりました。

永年の念願が叶い大いに張り切っておられます。本号表紙の「雪の港」

(30号)は先生の力作の一つで、今回の展覧会に出品されたあと母の会を通じて母校に収められることになっております。

(主な略歴)

- 昭和7年 旧制横浜高等工業高校卒 田辺三重松、水谷清に師事
昭和9年 春陽会初入選、以後文展紀元年奉祝展ほか多くの美術展に出品受賞
昭和18年 渡仏、アカデミー・グランショミュールに学び、オージャムに師事以後外遊十数回
昭和55年 横浜市主催画業45年大回顧展開催
現在、春陽会々員、全道美術協会々員、横浜国大講師

玄冥会 (昭14卒、41期)

日時 六月十四日
場所 ニュートリーキョー
出席 十三名
幹事 堤 明 司
連絡先 世田谷区下馬三―一―三

函中ニッパチ会

(昭28卒、55期)

六月八日(土) 五時三〇分より
銀座三笠会館において(今年で十回目)
出席者 二十五名(内女性九名)

恩師青野朋義先生をお迎えし、遠くは
福島地元函館からもニッパチ会事務局の
大坂義通氏が出席90周年行事と同時に開
催される同期会での再会を約して散会。
幹事の一人田子嵩也氏の御母堂が病に
倒れ急遽帰函の為欠席、一日も早い御回
復を祈ります。

幹事

大沢 勘 八

〇二七四

船橋市習志野台三―五―二五―五〇四

〇四七四―六七―五三六五

阿部 健

〇一〇二

千代田区五番町四―四―八〇八

〇三―二六二―七四九四



福祿会 (昭29卒、56期)

昨年は東京に於いて卒業三十周年記念
会(関東ブロック)を六月二十三日ホテ
ル高輪に於いて七十一名の出席者を得て
盛大に開催、遠くは沖繩、鹿児島、岡山、
神戸、函館、青森などからの出席もあり
ました。

八月十八日は函館に於いて全体記念会
が開催されました。(先生十五名出席あ
り)(ロイヤルホテルにて百四十七名出

席)(東京関係者二十七名出席)

二回にわたる記念会に出席して卒業三
十年の重みと尊さを強く感じた年であっ
たと思います。

本年は十一月八日根上義昭君、倉部健
治君、女性一名(迎町路美子さん)の世話
幹事によって函中九十周年を迎えての同
期会を開催することに決定致しました。

昨年の報告や想い出話しも多くありま
すので多数の出席を期待し、又幹事の方
々のお世話を特にお願い申し上げます。



開催日 昭和六十年十一月八日(金)

午後六時〜九時

会場 ホテル高輪

常任連絡世話人

黒川陸郎・内藤 博

昭30卒 (57期)

ことしで我々も高校卒業してちょうど
30年になるので、以前より「地元函館で
賑やかにやろう」とプランを立て、色々
と進めてきました。

まず東京地区同期会を去る一月十九日
(土) 赤坂東急ホテルで開催、福岡から
桜庭君、五所川原から兼平君、さらには
函館から鈴木さんなど珍客の参加もあつ
て出席者36名、夏の函館行きに加えて、
母校90周年記念事業への協賛も積極参加
することに決定、大いに氣勢をあげまし
た。

そして、八月二十四日(土)函館国際ホ
テルにて全国同期会を行いました。東京
地区からの三十八名がをはじめ、恩師九氏
を加えて全国から参加者は、一一七名に
達しました。記念撮影に始まり恩師との
再会、翌日のゴルフコンペや原田利直君
運転のバス観光旅行など地元幹事諸氏
のご努力で大いに旧交を暖めるとともに、
五年後の再会を約しました。

(幹事 越後 明、吉田精吾)

昭37卒 (64期)

我が函中64期(昭和37年卒)は、今年七月三十日(火)に同期の東京交響楽団フルート奏者星川龍二君のフルートリサイタルを開催し、合わせてそのあと横浜イギリス館にて、同期会を持ちました。我が同期主催の会は初めてで、ユニークな催しとなりました。

幹事 林 高裕

函中38会(昭38卒、65期)

昨、昭和五十九年度は、幹事の怠慢と会場難から全体会は開催せず、会長の見元義治氏の帰函送別会として一部有志が集まって、次のとおり行いました。

日時 五十九年十一月二十二日(木)

午後七時~九時三十分

場所 「根岸」

新宿区歌舞伎町二―十一―四

ニューカブキビル四F

(二〇九)四〇七四

当日の出席者 宇美猛俊、梅津洋子、小原洋一、鎌田佳勝、菅原大作、鈴木耀、高野晃、高向(三田)暁子、辻幹男、寺島嘉雄、中里清敏、野路馨、橋本(泰)裕子、道下勝之、見元義治、山口幸夫、山初省吾(十六名)

当日の状況 ◎見元会長の帰函について

の経緯 ◎記念品の贈呈 ◎各自近況報告 ◎38会の今後のあり方 ◎全体会の開催について(この日の会では、できれば実施に向けて努力することになったが、会場探しの難しさから五十九年度は断念した)会は大変盛り上がったが、遠方からの出席者も多く、九時三十分過ぎ散会した。

なお「38会」への連絡については、前記の「根岸」(宇美・道下氏)または菅原 一八二

調布市染地二―八―三E―一〇一

〇四二四(八六)三八六七

勤務先 (財)東京都予防医学協会 〇三(二六九)二一〇一まで

会員短信

この会員短信は、昨年の会費振込用紙の裏面短信欄から抜粋させて頂きましたので、多少時日の経過がありますことをご了承下さい。また、住所異動や勤務先変更等の記載が沢山ありましたが、新発刊の全会員名簿を基本にしてあらためて支部名簿作成に取りかかりますので、それに反映させる予定です。なお、今回も会費振替用紙を同封しましたので、裏面近況・通信欄を有効にご利用下さい。

まだ週一回大学へ行っていますが、足

腰が弱くなり杖を使うようになりまし

た。(昭2卒渡辺綱三)いつもお世話に

なり有難うございます。(昭3卒窪田亮

明)私は、昭和八年九月に札幌一中から

函中に転入学し、更に昭和十一年一月に

朝鮮の竜山公立中学に転入学し同校を卒

業した者です。しかし、函館では大火に

遭遇し、また父が津軽海峡で戦死する等、

想い出の多い街でした。(昭11卒相当神

子田康彦)五十九年三年末限りで第二次

就職先を退職し、四月以降は自由時間

一〇〇%の生活をしています。(昭13卒

林正純)目下ダッカ滞在中にて不在です。

(昭15卒上村寿彦)さる五十九年三月末で

「厚木労働センター」を退職しました。

(昭17卒黒田博之)在京同期四四名と判

明、NHK「獅子の時代」に唄んで「獅

子の会」と称します。文芸春秋、五十九

年五月号同級生交歓に登場しました。

(昭17卒第44期佐藤文三)五十九年四年

神戸から転勤して参りました。勤務期間

も一年位と短いかも知れませんが、よろ

しくお願いします。(昭19卒鎌田秀夫)

転勤で関西に来ております。今後ともよ

ろしく願っています。(昭20卒高瀬俊明)

東京白楊だよりの編集、誠に苦勞様で

す。大変面白く拝読いたしました。(昭

20卒篠田作衛)九十周年の成功を祈りま

す。(昭27卒小宮山恵三郎)現在結核入

院中(昭38卒見元義治)



○ 会報担当になって三年になります
が、皆さんの交流の場になればと思
い つつも、中々満足がいくまでに至りま
せん。しかし、色々な方から多くの建
設的なご意見をいただきながら、より
一層楽しく読んでいただけるような会
報づくりを心がけていこうと思いま
す。

○ 母校90周年記念行事の準備も着々と
進んでいるようです。新制旧制を問わ
ず、みんな一緒に心からお祝い
し、そして次の百周年をめざして、さ
らに大きな「友だちの輪」を広げてい
きたいものです。(Y)

発行・白楊ヶ丘同窓会東京支部
編集・伊東克郎、吉田精吾
支店部・160東京都新宿区坂町一八
事務局・小畑文雄方
電話・(三五二)二〇二二